

今月は記述式問題の解き方についてお話します。

記述式問題を解くときに初めに行ってほしいのは、設問の分析です。何が問われているのかを正確に理解していなければ、ピントのぼやけた解答を書いてしまう可能性があります。出題者の出題意図を考え、出題者の求める解答を書く。これが記述式問題で一番大切なことです。記述式問題の典型的な設問パターンには、具体化の記述、相違点の記述、比喻の記述、理由の記述、心情の記述、暗示・象徴の記述、要約型の記述などがあります。それぞれの解法パターンに合わせて、解答を考えていくことになります。

設問の分析ができれば、解答の根拠となる部分をさがし、説明するべき点を整理します。このとき、採点の基準となる要素がいくつあるかを意識して、説明するべき点をまとめておくことが重要です。説明するべき要素が何ポイントあるかを考えないで答案を作成すると、何を伝えたいのかがよくわからない文章になることが多く、注意が必要です。

説明するべきポイントがつかめたら、解答の要素をどの順序で説明すればわかりやすい答案になるか、解答の要素をつなぐ論理は何かを考えて、解答を頭の中で作成します。そして、頭の中で解答がまとまった段階で、一度下書きをします。次に、下書きを見て推敲します。字数制限のある問題では、制限字数に収まっているか、極端に字数が足りないことはないかをチェックしてください。制限字数をかなりオーバーしている場合は、説明しなくてもいいことまで書いてしまっています。また、字数が明らかに不足している場合は、説明するべき要素が漏れています。これらの場合は、もう一度本文を読み直し、答案を作成し直しましょう。推敲する際は、主語と述語が対応した文章になっているか、修飾関係がはっきりわかる文章になっているか、誤字脱字がないかを確認してください。また、出題された文章を読んでいない人が答案を見た時に、具体的な内容が伝わるレベルの答案になっているかという視点で見直すことも重要です。出題された文章を読んでいない人が理解できない答案は、解答としては説明不足になっています。答案の内容に疑問が残る部分に注目して、再度答案を書き直すようにしてください。

ただし実際の入試では、下書きをして推敲する時間が取れないこともありますので、そのときは頭の中で推敲まで終わらせてしまい、一気に解答用紙に答えを書くようにします。

続いて、記述式問題を解く力を身につけるための、間違い直しのやり方を説明します。まず模範解答をよく読み、説明するべき要素がいくつあるかを確認します。そして、なぜその要素が解答には必要なのかを考えてください。次に、解答の要素となる部分が、本文中のどこに書かれているかを探しましょう。傍線部分から解答の要素となる部分を見つけるための論理を考えるようにします。はじめは解答の

根拠となる部分を見つけるための論理がよくわからないこともあるかと思いますが、自分なりの理屈でいいので、考えるようにしてください。何度も練習していくうちに、論理的に考える癖が身についていきますので、次第に根拠となる場所を見つけられるようになっていきます。

さて、書くべき要素がおさえられたら、模範解答を見ずに、自分で解答を書き直してみるようにしましょう。相手に伝わるわかりやすい日本語が書けるようになるためには、この書き直すという作業が重要です。書いた量に比例して、日本語を書く力は上達していきます。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第18回

今回はラ・サール中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略をたてましょう。ラ・サール中の入試は、記述量が多いため、時間配分に注意が必要です。また、設問の意図をよく考えないと、どう表現すればいいのかが分からない問題も出題されます。出題の意図を考えて、問題を解くようにしましょう。

第19回

今回は説明・論説文の総合問題を学習します。説明・論説文では、具体化の記述、理由の記述が設問の中心になります。それぞれの解法を思い出して、演習するようにしてください。

第20回

今回は物語文の総合問題を学習します。物語文では、心情説明の記述、心情がらみの理由説明の記述が設問の中心になります。それぞれの解法を思い出して、演習するようにしてください。

夏休みを目前に控えたこの時期は、日々の学習の定着をはかるとともに、夏休みでさらに実力をつけるための計画をたて、その準備にかからないといけません。忙しい日々が続きますが、志望校合格のためにがんばってください。

この講座は基本的な内容がしっかりと定着した上で、さらに発展的な内容を身につけることを目的にした講座となります。基本の徹底を大切にして、取り組むようにしてください。

動画の構成としては、まずは〔重要問題〕が各回 10 題程度収録されています。〔重要問題〕はまず自力で取り組んでください。そのとき、ノートには式や考え方をかいて、整理をしながら取り組みましょう。その後、答え合わせをして、まちがえた問題（できなかった問題）は必ず動画を見ながら解法の手がかりとなる考え方を習得してください。できれば、できた問題も解法の整理をするために、動画を見ることをおすすめします。〔練成問題〕は、〔重要問題〕から派生した問題を中心に収録しています。このうち、発展的な内容を扱うタイプのうち、特に重要なものを動画で扱っていますので、どんどんチャレンジしていきましょう。

7月は、「速さ」の分野に取り組めます。18回～20回は、いろいろなモノがいろいろな場所を動きます。速さの基本をおさえた上で取り組んでください。両回の学習の目安は以下の通りです。

◆第18回 速さⅠ

今回は「速さ」です。速さの問題に取り組むにあたって、「比を上手く使えることはできないか」「進行グラフになおしてみるとどうなるか」など、いろいろ工夫することによって解法が見えてくることが多いです。難しい単元ですが、しっかりとがんばりましょう。

①〔重要問題〕

①ー速さと比

BとCの進む距離の比はずっと同じだ！と考えてみましょう。

②ー坂道問題

いくつかの解法がありますが、まずは「消去算」を利用した解法を身につけましょう。

③, ④, ⑤ー速さと比

道のりが一定ならば、「速さの比」と「時間の比」は逆比になりますね。かかる時間の差に注目しながら取り組んでいこう。

⑥, ⑦, ⑧, ⑨ー旅人算と進行グラフ

まずは、進行グラフに様子をあらわしてみましょう。「一定の時間」「一定の道のり」に注目することで、解法が見えてきます。

⑩ー旅人算

「同じ辺上にくる」ということは、2人の差が最低 60mになるということですね。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第19回 速さⅡ

今回は「速さと図形との融合」です。速さの視点も大切ですが、図形の特徴を理解して取り組むことも大切です。また、円周上を動くときは、長さではなくて角度に注目することによって、より理解が進みますよ。皆さんの多くが苦手とする時計算も一気に理解が深まるかも・・・

①〔重要問題〕

①, ②—円周上を動く点

円周上を点が動く問題では、「角速度」に注目しましょう。

③, ④, ⑤—図形上の点の移動

具体的に時間が指定されている問題では、その時間の動点の位置を確認することが大切です。また、同じ図形上を動いているので、周期があることを理解しておきましょう。さらに、④では、「シャドー」という解法も手に入れましたね。様々な場面で利用することができるので、しっかりと取り組んでみましょう。

⑥, ⑦, ⑧, ⑨—時計算

時計算は角度に注目することで、普通の速さの問題に変わります。さらに、短針と長針の速さは決まっていますし、針が動く方向も決まっています。問題ごとにいろいろと変化するよりも簡単に思えてきませんか？

⑩—変則時計算

時計算の考え方が理解できているかがポイントですね。短針・長針の速さや動く方向に注意しながら取り組んでください。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第20回 速さⅢ

今回は「通過算」「流水算」を扱います。速さの基本をおさえながら、条件をプラスしていくことになります。「通過算では、道のりに列車の長さを加える」「流水算では4つの速さを確認する」など、基本的な手順が決まっています。これらを確認しながら取り組みましょう。

①〔重要問題〕

1, 2, 3—通過算

通過のようすを図にあらわすことで、理解が深まります。注意すべき点は、列車全体をみるのではなく、列車のある一点（先頭や最後尾）に注目することで、点の移動の問題に変わります。

4 一速さと比

電車が問題文に出てくるので、通過算と 생각이 ちですが、ここでは電車の長さは考えません。電車の間隔は一定なので、「道のりが一定」であることに注目して取り組んでください。道のりが一定ならば、時間の比と速さの比は逆比になりますね。

5 通過算の応用

このグラフは進行グラフではありません。時間と速さの関係を表したグラフです。速さの三公式で「速さ×時間＝道のり」がありますね。このグラフの面積が道のりを表すことになります。ときどき出題されますので、理解をしておきましょう。

6, 7, 8, 9—流水算

流水算では、「上りの速さ」「下りの速さ」「静水時の速さ」「流れの速さ」を常に意識しながら取り組んでください。さらに、比を利用することで理解が深まります。

10 一流水算と旅人算

2 そうの船が向かい合って進むと、流れが打ち消し合って、速さの和は静水時の速さの和に等しくなります。同様に、同じ方向に進む場合でも同じです。

② 〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

算数強化ツールにつきましては、以下ご参照ください。

算数強化ツール

◆第19回 (テキスト表記は37回…括弧内は以下同) 立体に関する色々な問題

特に重要な問題は、**1**、**5**、**6**、**12**、**15**です。**17**は難しくはないのですが、苦手な人が多い問題です。回転体についても**7**、**8**、**18**で練習をしておいてください。よければ**13**、**14**も挑戦をしてください。

1、**15**は結果をある意味で覚えておいてもいい問題だと思います。**5**についても、体積一定の場合は、表面積最大にするには立方体に近づければいい(貼り合わせる部分が多くなるから)ということを理解しておきましょう。(表面積を最大にするには、細い棒状にすればいいのです。貼り合わせる部分が少なくなるからです。)

◆第 20 回（38 回） 水入れに関する問題

定番の問題は、 $\boxed{2}$, $\boxed{5}$, $\boxed{7}$ あたりですが、 $\boxed{8}$, $\boxed{10}$, $\boxed{11}$, $\boxed{12}$ も挑戦する価値のある問題になります。 $\boxed{10}$ は少し工夫をすれば計算などは複雑ではありません。 $\boxed{7}$ と $\boxed{11}$ は一見似ていないようで、共通要素があります。水の中に入っている重りの分だけ水面が上がっているという考え方です。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じる単元については、「基礎」や「共通」の部分も使って練習を積むことをお奨めします。